

第66回
関西社会学会大会
プログラム

第1日 2015年5月23日（土）

第2日 2015年5月24日（日）

開催校
立命館大学

大会日程概要

<第1日目 5月23日(土)>

- 13:30～ 受付開始
- 14:00～16:30 一般研究報告(自由報告) I
- 16:45～17:30 総会
- 18:00～20:00 懇親会(諒友館地下食堂)

<第2日目 5月24日(日)>

- 09:00～ 受付開始
- 09:30～12:00 一般研究報告(自由報告) II
- 13:00～15:30 シンポジウムおよび若手企画部会

※懇親会以外(一般研究報告, 総会, シンポジウム, 若手企画)は全て敬学館 1階でおこなわれます。

一般研究報告(自由報告)の報告者の方へ、事務局からお願い

- ・報告者は部会開始時間の5分前までに会場に集合して、司会者と打ち合わせをしてください。
- ・1報告あたりの報告時間は25分です。
- ・会場および周辺では配布資料のコピーサービスはできませんので、報告者は50部程度ご用意ください。
- ・報告申込の際に情報機器の使用を希望した報告者の会場には、ディスプレイ(50V型)他の当該機器が備えられています。パソコンはご自身で持参してください(ただし開催校でも部会の部屋ごとにWindows 7のノートパソコンを用意します。マイクロソフト・オフィスのバージョンは2010です。ご利用の場合はUSBメモリなどを持参してください)。ディスプレイとパソコンを接続するケーブル(Mini D-sub15ピン)は備わっています。Macをご利用の場合はアダプタもお持ち下さい。
- ・機器や接続には故障や不具合が生じる場合があります。万一来ないに備え、機器なしでも滞りなく発表できるようにご準備ください。機器を利用する方は、部会の始まる20分前に報告教室にお集まりいただき、その教室で機器が正常に作動するかを確認してください。

参加費用

大会参加費		2,000 円
懇親会費	一般	5,000 円
	学生	3,000 円

※本大会では受付での学会費の徴収は行いません。学会費納入のコーナーも設けません。

第1日 5月23日(土)

◆受付開始 13:30(敬学館1Fロビー)

一般研究報告Ⅰ 5月23日(土)午後 14:00~16:30

1. 理論・学説(1) (敬学館232) 司会者: 田中 紀行(京都大学)
1. 説明問題誌のために 藤原英男
 2. 世代間倫理における決定に「永遠」概念が資するところはあるか 木村純(京都大学)
 3. 国家論から見たナショナリズム論 田中隆介(大阪大学)
2. 社会調査法・社会学研究法 (敬学館233) 司会者: 川端 亮(大阪大学)
1. フォト・エスノグラフィーの社会的実践 岩谷洋史
(国立民族博物館)
 2. 統計的因果推論と計量社会学 大久保将貴
——因果効果は社会を記述するか—— (日本学術振興会・大阪大学)
 3. マーカーとしての笑いと「お笑い」 中河伸俊(関西大学)
——フレーム分析の実装化に向けての一試行——
 4. 価値観の社会科学はいかにして可能か? 真鍋一史
——社会という視座からの Cumulative Knowledge の提案—— (青山学院大学)
3. 組織・社会運動・集合行動 (敬学館234) 司会者: 吉田 竜司(龍谷大学)
1. 環境運動への参加 高倉弘士
——Worldwide Governance Indicators をもちいた国際比較—— (立命館大学)
 2. Web時代の災害ボランティアに関する統計的検討 溝口佑爾
——東日本大震災 被災写真救済ボランティアを題材として—— (日本学術振興会・京都大学)
 3. グローバル企業における職場のデータベース管理について 高木裕宜
(文京学院大学)
 4. 組織における信頼概念の位置づけについて 川本悟士(大阪大学)
——信頼と協働の関係——
4. 教 育 (敬学館240) 司会者: 森田 次朗(中京大学)
1. 親の会を通してみるフリースクールの感情統制構造 竹中(井上) 烈
——感情統制の三極関係を下敷きに—— (愛知文教大学)
 2. オルタナティブスクールのネットワークにおける協同の概念分析 藤根雅之(大阪大学)
——実践者へのインタビュー調査から——
 3. 若年層の生活満足度の推移と学校教育 轟 亮(金沢大学)
——「若者の幸福化」命題の検討——

5. 社会心理・社会意識(1) (敬学館 241) 司会者: 金 明秀 (関西学院大学)
 一寸木英多良 (青山学院大学)
1. 「寛容」の次元についての検討
 ——「社会的寛容」に焦点を当てて——
 2. 外国人への寛容性と社会関係における多様性・親密性
 ——JGSS-2008 のデータを用いて——
 3. 政治的信頼と福祉国家への支持
 ——調整変数としての失業率——
6. 社会福祉・医療(1) (敬学館 242) 司会者: 前田 拓也 (神戸学院大学)
 正井佐知 (大阪大学)
1. 障害者参与はどのように構成されるか
 ——オーケストラの合奏練習を事例として——
 2. 断酒社会論構築のためのエスキス
 ——酒害者本人による参与観察(入院、通院、自助会活動)を
 手掛かりに——
 3. コレクティブハウジング居住を通じた家族関係の変容
 ——高齢者夫婦世帯に着目して——
7. ジェンダー・セクシュアリティ (敬学館 243) 司会者: 石田 あゆ (桃山学院大学)
 村上彩佳 (日本学術振興会・大阪大学)
1. パリテ制定を契機とした「政治的なものの再興」とフェミニズム
 ——フランスの女性誌 Marie Claire と ELLE を事例として——
 2. 非行対策の強化における「若者」のセクシュアリティとマスメディア
 3. 授乳と生 - 権力
 ——厳格な食事制限をとまう完全母乳育児にとりくむ母親
 の語りと実践から——
 4. 林業とジェンダー ——森林・林業と女性問題事始め——
8. テーマ部会: 薬害の教育と伝承をめぐって (敬学館 244)
 コーディネーター: 山田 富秋 (松山大学)
1. 「薬害」を学ぶための副教材はどのようにして作られたのか
 ——中等教育を対象とした「薬害教育」に関する討議の検討——
 2. 「薬害教育」に資する「加害者」表象とは
 ——非加熱濃縮製剤の回収判断を事例として——
 3. 薬害の一般性とその概念化における課題をめぐって
- ディスカッサント 花井十伍 (全国薬害被害者団体連絡協議会代表世話人) ・
 種田博之 (産業医科大学) ・ 田代志門 (昭和大学)

総 会 16 : 45 ~ 17 : 30 (敬学館 230)

懇 親 会 18 : 00 ~ 20 : 00 (諒友館地下食堂)

第2日 5月24日(日)

◆受付開始 09:00(敬学館1Fロビー)

一般研究報告Ⅱ 5月24日(日)午前 9:30~12:00

9. 理論・学説(2) (敬学館232) 司会者:三上 剛史(追手門学院大学)
1. ルーマンのリスク・コミュニケーション論再考 井口暁(京都大学)
 2. P.L.バーガーの社会学論 池田直樹(神戸大学)
——<科学と倫理>問題という視角から——
 3. サンシモン主義から社会解体論へ 鎌田大資
——初期シカゴ学派家族社会学の原点を求めて—— (相山女学園大学)
10. 都 市 (敬学館233) 司会者:二階堂 裕子(ノートルダム清心女子大学)
1. 自治会・町内会への加入・参加の規定要因 伊藤理史(同志社大学)
——大阪市民対象の社会調査を用いたマルチレベル分析——
 2. 近代日本の都市における「公園」概念の導入と社会の受容 堂本直貴(京都大学)
——1875年から1933年までの「読売新聞」紙の分析から——
 3. 「1995年生まれ」の空間性と生きられる想像力 稲津秀樹
——「阪神・淡路大震災後」の都市空間で交差する人びとの軌跡から—— (日本学術振興会・慶應義塾大学)
11. 文化・知識・科学 (敬学館234) 司会者:今井 信雄(関西学院大学)
1. 社説に見る防災の日 水出幸輝(関西大学)
——「防災の日」創設と関東大震災の再構成——
 2. 見る／見られる男子新体操 秦美香子(花園大学)
——「応援」をめぐるファンと選手の語り——
 3. 正負の遺産を語り伝える記憶の贈与 ○松浦さと子
——伏見区深草コミュニティーアーカイブ活動(8ミリフィルム) (龍谷大学)
収集と公開)における異世代交流より—— 松本篤(東京大学)
長岡野亜(映画監督)
 4. 母の中国文明論へ ——『目連救母』の分析を中心に—— 川田 耕
(京都学園大学)
12. 社会病理 (敬学館240) 司会者:平井 秀幸(四天王寺大学)
1. 「いじめ」概念の国際比較研究の可能性をめぐる社会学的研究 姚逸葦(京都大学)
——日本・中国・台湾3つの地域を中心として——
 2. 男性性と性暴力 尾崎俊也(大阪大学)
——メッサーシュミットの行為理論を起点にして——
 3. 児童虐待の大都市比較 金子勇(神戸学院大学)

13. **社会心理・社会意識(2)** (敬学館 241) 司会者:長松 奈美江 (関西学院大学)
1. 職場における非正規労働者の増加が正規労働者の意識に与える影響 郭雲蔚 (京都大学)
 2. 自己、序列、あるいはシャカイについて 寺崎正啓 (神戸大学)
——N.ルーマンの社会理論を交えつつ——
 3. お金のかかる有人宇宙開発から日本政府は撤退すべきなのか ○藤田智博 (京都大学)
——宇宙開発世論の分析—— 脇元瑞葉 (京都大学)
太郎丸博 (京都大学)
14. **社会福祉・医療(2)** (敬学館 242) 司会者:樫田 美雄 (神戸市看護大学)
1. 「疑わしき病」の患者における、痛み経験の伝達 景山千愛 (京都大学)
——化学物質過敏症患者の語りの分析から——
 2. うつ病という労働災害の登場 田中慶子
——電通過労自殺裁判において精神医学的知識が果たした役割—— (広島修道大学)
 3. チーム医療におけるヘルスコミュニケーションを阻害するもの 安林奈緒美 (中部大学)
——臨床工学技士の医療機器安全・予防教育遂行の視点から——
15. **宗教・エスニシティ** (敬学館 243) 司会者:伊地知紀子 (愛媛大学)
1. 日本人の宗教意識における世俗化の検討 ○清水香基
——NHK「日本人の意識調査」の2次分析—— (青山学院大学)
中村隆
(統計数理研究所)
 2. ホームランドで継続される権利と義務 許燕華 (京都大学)
——農村からの中国朝鮮族移民を事例に——
 3. 「スカーフを着用しないこと」について 安達智史
——イスラーム、女性、市民社会—— (University College London)
16. **社会史・歴史社会学** (敬学館 235) 司会者:田野 大輔 (甲南大学)
1. 社会的に構成される世代 ——団塊世代を例に—— 岡本洋一 (同志社大学)
 2. 婚外子と彼(女)たちの母親のライフコース 中島満大
——近世海村を対象とした歴史社会的分析—— (日本学術振興会・
神戸大学)
 3. 公衆の物質性 ——近代日本における書齋のメディア史—— 西川純司
(神戸松蔭女子学院大学)
 4. コメのメディアとゼマンティック 碓井崧 (金沢大学)
——祭政一致から国家財源へ——

若手企画部会 (敬学館 244) 13:00~15:30

地域社会をデザインする社会学に向けて
—京都における多文化的状況を通して—

コーディネーター：山本崇記（静岡大学）

- 趣旨説明 京都における多文化的状況の水位とアプローチ 山本崇記
1. 在日フィリピン人コミュニティを中心とする関係の広がり
—京都市に注目して— 永田貴聖
(国立民族学博物館)
2. フィリピンルーツの子ども・若者が抱える課題と地域支援
—方法としての語り— 原めぐみ（大阪大学）
3. 学校・教育支援から地域・まちづくりモデルへの移行は可能か
—小学校日本語教室との関わりから— 内田晴子
(京都文教大学)

討論 白波瀬達也（関西学院大学）

妻木進吾（龍谷大学）

コメント 淀野実（京都市総合企画局市民協働・国際化推進担当局長）

シンポジウム (敬学館 230) 13:00~15:30

地方から露わになる亀裂と構造的暴力

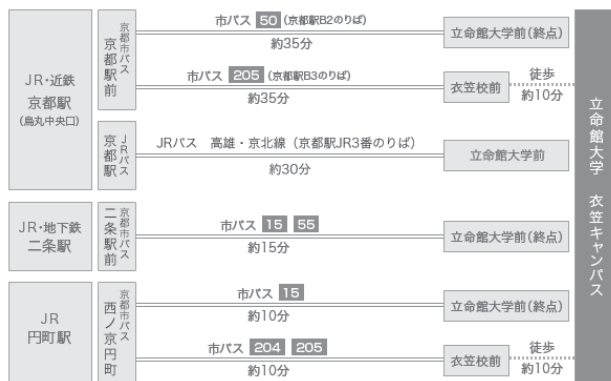
司会：栗岡幹英（奈良女子大学）

1. 錯綜する境界線 岸政彦（龍谷大学）
—沖縄の階層格差と経済構造—
2. 原発事故後の復興政策の現実 佐藤彰彦
—帰還・自立の阻害要因と構造— (高崎経済大学)
3. 東日本大震災における復興とは 関嘉寛（関西学院大学）
—中心と周縁の関係から考える—

ディスカッサント 菊地夏野（名古屋市立大学）

早川洋行（名古屋学院大学）

立命館大学衣笠キャンパス・アクセスマップ

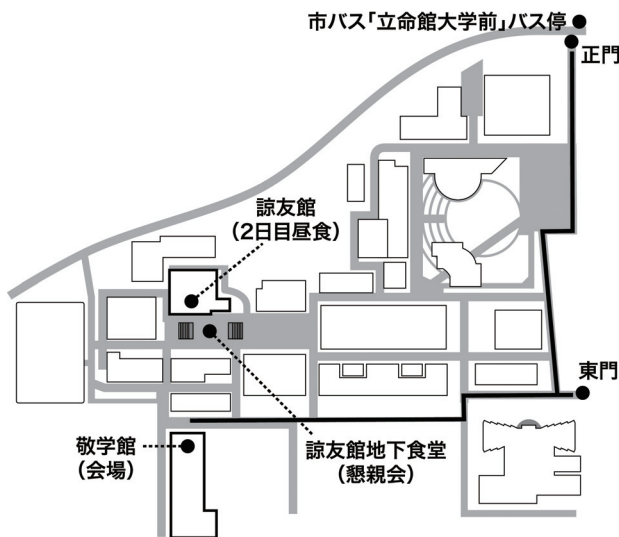


天候や道路状況によってバスの所要時間は大きく変化する場合がございます。

二条駅または円町駅まで電車でお越しになりまして、バスに乗り換える時間を短縮できます。

円町駅からタクシーをご利用になりますと、ワンメーター程度で到着します。

詳しくは立命館大学 HP や、京都市交通局 HP の市バスのページをご参照ください。



[大会期間中の託児室のご案内]

本大会では大会期間中、立命館大学内に託児室（有料）を設置します。ただし、利用は事前に申込みをされた方に限ります。利用をご希望の方は、関西社会学会HPをご覧ください。利用要領をご了解のうえ、5月11日（月）17:00までに大会実行委員会へお申し込みください。